

# 吉野民話地図

Yoshino folktales walking map

● 投石の滝



# 地図の民話スポットで声に出して読もう！

原話資料 (1) 比較民話研究会 櫻井龍彦代表編著『奈良県吉野町民間話報告書』、

(2) 比較民話研究会 竹原威滋・丸山顯徳 共編『東吉野の民話』、

(3) 比較民話研究会 谷垣伊太雄・横山浩子 共編「奈良県吉野町園栖の昔話（上）」、

(4) 比較民話研究会 編「奈良県吉野郡大塔村の昔話（下）」、

(5) 高田十郎編『大和の伝説』

## 再話

### 蛙になった人間

大峰山では、五月三日の山開きから九月二十三日までの間に、  
ようけの人がお参りに行くねんて。冬は雪が多いから行かへん。夏場だけや。  
大峰山の参道は険しいて、奥へ行くほどだんだん険しなっていく。  
ある人が、あんまりしんどいから、「こんな険しいとこで話聞いて拜んでも、別に御利益ない」  
いうて、ほかのお参りしてた人にまで、いろいろ嫌がらせを言うたんや。そしたらその人、バチが  
当たったんか、覗きの崖から、足滑らして落ちてしもうてん。



資料(1)

運の良いことに、その人は死ななかった。けど、今のようにはリコプターも何もない時分やから、  
助けに行くにも行かれへん。そこで、お坊さんが集まって相談して、その人に、  
「助けて欲しいければ、蛙の姿にして、助けてやろう。それで真人間になるかいわはってん。その人が、  
「真人間になります」いうたので、お坊さんらは、その人を蛙の姿に変えてん。その人は、蛙の姿  
でびよんびよんと崖をよじ登って助かったんや。

お坊さんらは、蛙を蔵王堂に連れて行くと、「人間の姿に戻るには、かなりの修行をせんならん」  
いうて、みんなで、とうとうとお経を上げてん。吉野じゅうのお坊さんが全部寄って拜んで、おか  
げで蛙は人間に戻り、真人間に生まれ変わったそうや。

その時から、蔵王堂では、七月七日に「蛙跳び」の行事が行われるようになったということや。

### 義経の隠れ塔

源義経は頼朝の弟で、はじめは兄弟仲がよかってんて。  
けど、義経の勢いがあんまり強かったので、頼朝が、「これはうかうか  
しとつたら、自分もやられるかも分からん」と思うようになってん。それでとうとう、義経は頼朝  
に追われる身になってしもうてんて。



資料(1)

義経は、吉野山まで逃げて来て、吉水神社に逃げこんでん。そこへ蔵王堂の横川寛範（よかわの  
かくはん）いう坊さんが攻めて来たんや。義経は、佐藤忠信に助けられて、弁慶といっしょに奥千  
本のほうまで逃げてん。そこに、役行者が行場として作った塔があったから、ふたりはその中に逃  
げこんだんや。それで、その塔のことを隠れ塔と呼ぶようになってん。ところが、敵が塔のまわり  
を取り巻いて攻め立てるので、こんどは塔を蹴破って逃げてん。そこから蹴破りの塔ともいわれて  
る。

そのあと、安宅の関を越えて平泉まで逃げていったんやな。

義経の隠れ塔は行場やから、今でも大峰山にお参りする人は塔に入って行（ぎょう）するねん。

吉野なる 深山（みやま）の奥の隠れ塔  
本来 空（くう）の 住みかなりけり  
オン アピラ ウンケン ソワカ

いうのを三回お唱えしてお祈りするねんて。

### 犬を飼わない村

むかし、大海人皇子が太友皇子との争いで  
吉野から窪垣内に逃げてきはったときのことや。



資料(3)

大海人皇子が婆河原まで来たら、おじいさんとおばあ  
さんが、紙漉（かみすき）の船を洗うておまつりしてはっ  
てんで。皇子は、「賊が追ってくるから助けてくれ」て言  
わはってん。

おじいさんとおばあさんは、すぐに船をひっくり返し  
て伏せて、皇子をその中に隠してあげたんや。ほんで、  
船のうえに榎の実の粉をお供えしておまつりしててんで。  
そこへ、賊の二匹の犬が追いかけてきて、鼻をくんく  
んさせて船のまわりをくるくる回ったんや。おばあさん  
が、「この犬はいやししい犬や。お供えを食べよと思てほえ  
る」いうて怒ったら、追いついてきた賊が、「そんな行儀  
の悪いことをしたらあかん」いうて、犬を殺してんて。  
おかげで皇子は助かったということや。

それからや、窪垣内では犬を飼わんことになってんで。  
その犬をまつた犬塚というのが今でも窪垣内の旧園栖  
小学校の庭にあるねんて。

### 狼の恩返し

むかしは吉野にも  
狼がすんどったんやで。



資料(2)

ある月夜のこと、狼が村の在所に来て  
ギョオー、ギョオー鳴きよるねん。鳴いて  
鳴いてしゃあやないもんやよつてに、村の  
もんが何か知らんと思て、出ていって見て  
ん。そしたら狼がえらい苦しそうやねん。  
狼の口をあけてのぞいてみたら、のどに牙  
が刺さってんで。たぶん猪を食べてその  
牙が刺さったんやろ。

村のもんは「そんなやつたら、おまえ  
その牙抜いたるさかいにな、噛みも何もす  
んなよ」て約束さして、牙抜いたったんや  
てな。狼は喜んで帰って行きよったんや。  
そしたら、その明くる日、その人の家の  
前にえらい大きい猪が転がしたあつてん  
て。「こら、狼が持ってきてくれたにちが  
いない」て、みなでいうてたんやて。

### 井光の井戸



資料(1)

むかし、神武天皇が九州から東に向かって進んできて、  
吉野山を越えて行かはってんて。

そのとちゅう、山の中腹に大きな杉の木があつて、木の根もとに井戸があつてん。  
神武天皇がその井戸のところを通りかかると、井戸の中からのすごい光がさして  
来てんで。みながびびくりしてるとな、光の中からしっぽのある人が出てきて、  
神武天皇の前にひれふしたんやて。神武天皇が、「お前は何かのか」て聞かはった  
ら、その人は、

「私は、この吉野山に住む井光（いひか）というものです。天皇の道案内をしてさ  
しあげようと思つて、お待ち申し上げておりました」ていうねんて。

神武天皇は喜んで、井光に道案内してもらて、また東に向かつて行つたいうこ  
とや。

その井戸は今もあつて、近くに井光山（いびかりさん）いうお寺と、井光神社  
いうてちいちゃい祠があるねん。

### 弘法清水



資料(2)

吉野の川上村の東川（うのかわ）は、山の高いところにあるねん。

むかしは井戸がのうて、水を汲むのに、下の谷川までおりて行かんならんかって  
んて。

ある夏の暑い日に、弘法大師さんが旅の途中、東川まできて、ある家に寄らはっ  
てん。ほんで、家の外から、「のどが渴いています。どうぞ水をください。」て、  
頼まはってん。すると、おばあさんが出てきて、「ちよつと待ってくださいや。今  
ここには水がございませんで。ちよつと待ってください。」いうて、桶をさげて、  
下の谷川まで水汲みに行かはってん。ほんで、長いこと経って帰ってきて、お大  
師さんに水を差し上げたんや。

そしたら、お大師さんは、「汗だらくになって何してくれた。そこまでしてくれ  
たか。よし、それやったら、わたしが、ここへ水が出るようにしてあげよう。」い  
うと、そこにあつた岩を、金剛杖でトントントンと三べんついて、願をかけはっ  
てん。すると、その岩から、冷たい水がこんこんと湧き出てきてんで。

それからは、村の人たちは、谷川に水を汲みに行かんでも、その泉からおいし  
い水をいただいて、水で苦労することはなくなったそうや。

その泉を弘法清水というて、今もあの高いところで水が湧き上がってるねんて。

### 伯母ヶ峰の一本足



資料(5)

むかし、伯母ヶ峰に大猪が出て人をとって食ういううわさやってん。

あるとき、ひとりの侍が、「その大猪、退治しろ」いうて犬連れて山  
の中に入つていつてんで。伯母ヶ峰の奥まで来ると犬がえらい鳴きだした  
ん。見ると、クマザサがえらい揺れたあねん。そのとき、背中にクマザ  
サがいつぱい生えた猪がだあつとかけだしてきて、谷渡つて逃げよつてん  
て。犬に追いかけて、追いつめられた猪は牙鳴らして犬に向こうてき  
よった。侍は、ねらい定めて鉄砲を撃った。猪は弾が当たって暴れまわり  
よったけど、とうとう力尽きて倒れてしもうてんで。

それから何日かして、紀州の湯の峰温泉に、足を痛めたひとりの野武士  
が湯治に来てんで。野武士は宿の主人に、「静かなはなれの座敷かしてくれ」  
いうてん。ほんで、「わしが寝てるときは、だれも来たらあかんぞ。のぞ  
いてもいかんぞ」いうねんて。あんまりきつういうもんやから、主人は「お  
かしいなあ」と思て、夜中にそつとのぞいたんや。ほしたら、寝とつたん  
は、背中にクマザサが生えた猪やつてん。主人が「あつ」と思たら、そい  
つ目さましょった。ほんで、

「あれだけ見えないうたのに、見たな。わしは、伯母ヶ峰に棲んでた猪  
笹王の幽霊や。侍に撃たれて無念でならん。あの侍の犬と鉄砲を手に入れ  
てくれ」いうねん。

主人が犬も鉄砲も手に入れへんかったら、猪笹王（いざさおう）の幽霊  
は一本足の鬼になって、伯母ヶ峰を通る人を襲うようになってんで。

それからしばらくして、ひとりのお坊さんが伯母ヶ峰にお地蔵さんをま  
つて、お経を埋めて経塚を作り、鬼を封じ込めたんやて。それで旅人が  
通れるようになってん。けどな、お坊さんは、「毎年十二月二十日だけはお  
まえの好きにせえ」て鬼にいわはってん。そやから「果ての二十日」いう  
て、この日は伯母ヶ峰の厄日や。この日は伯母ヶ峰通つたら鬼に食われる  
いうねん。ほんで、その晩に限って、猪笹王を撃った鉄砲が、どうもせん  
のに汗をかくんやて。その鉄砲は天ヶ瀬の祠に納めてあるということや。

### ガタロウの薬



資料(4)

むかし、辻堂の蒲生の裏にどえらい大きな淵があつたんや。  
そこに、ガタロウ（河童）がおつた。

あるとき、お寺の和尚さんが、夜にお便所に行つたら、ガタロウが下か  
ら手出してきたんやて。和尚さんはその手を鎌で切つて、ほつといたんや  
て。

次の晩、ガタロウがお寺に来て「手返してくれ」いうねんて。「手返し  
てくれたら、ええ薬やるさかい」いうて。和尚さんは薬とひきかえに手返  
したってんで。

その薬が錦草や。今でも蒲生屋さんで売ってるらしいわ。

### 蟻通明神

むかし、お殿さんが、「年寄りは飯を食つし、はたらきもない。  
山に捨ててしまえ」て命令を出さはってん。

あるところに、ひとりの息子がおつて、親を山に捨てるのはいややというて、  
家の中に芋穴を掘って父親を隠したんやと。ほんで、毎日食べ物を運んで養つてたんや。

あるとき、お殿さんにとりの国から難しい問題を出してきたんや。けど、だれも答えが分かるもんが  
おらへん。その問題のひとつは、玉に穴がたくさんあいていて、「この穴に糸を通してみよ」いうことやつた。

息子は、芋穴のなかの父親に尋ねてみてん。父親は、「そりや、蟻の足に糸をつけて穴の中に入れて、出  
口の穴に蜜を塗つといたらええ。蟻は蜜を慕って行くから、糸がとおる」いうて教えてくれてんて。

二つめの問題は、四角い木があつて、本と末がわからへんねんけど、「本と末を当ててみい」いうことやつ  
た。父親は、「そりや、水につけたら分かるがな。もとのほうが重たいから、かすかに沈む」いうて教えて  
くれてん。

さいごは、「灰で縄をこしらえてみい」いうことや。父親は、「そりや、なんでもないことや。縄に塩をぬつ  
て焼いたら形が残る」いうた。

息子はさつそくお殿さんのとこへ行つて、答えを教えたんやて。お殿さんは喜んで、息子に、「ほうびを  
やろう」いわはった。そこで息子は、

「じつは、父親を隠して養っています。三つの問題は、みな父親が答えてくれました。どうか、父親が死  
ぬまでいっしょに暮らせるようにしてください」て頼んだんやて。

お殿さんは、年寄りの知恵を認めて、それからは、年寄りを山に捨てるいうことをやめにしてんで。  
この孝行息子をまつてあるのが蟻通明神（ありとおしみょうじん）やねん。